

名刺について

使用者委員 米盛庄一郎

私が初めて名刺を使ったのは45年ほど前の大学時代でした。鹿児島県人会にて学生コンサートの支援を行うことになり、その広告協賛金を集めたり、チケット販売のために必要でした。しかしながらそれ以外学生時代は必要ありませんでした。ところが、社会人になると名刺は必需品となります。入社式以降の研修では挨拶の仕方、名刺の受け渡し等の指導があり、実際配属先では真新しい名刺を渡された思い出があります。名刺には色々な情報が記載されています。会社名、肩書、氏名、連絡先住所・電話番号など。時代の進化と共にFax番号、携帯番号、Eメールアドレスなど記載内容が増えてきています。以前は名刺整理ファイルもありましたが、最近は名刺管理アプリも登場し、便利になったものです。

仕事上、様々な方と名刺交換させていただきますが、多くの肩書が書いてあるとどれが本職なのか不明で戸惑うこともありますし、裏面までびっしり記載があると信用できなくなることさえあります。私自身も会社以外に役職を持っており、数種類の名刺がありますが、名刺を使う場面では使用目的を明確にして相手に渡したほうが良く、名刺の使い方は奥が深く感じられます。

今手元に労働委員会の名刺があります。使用者委員として任命されたときに渡されたもので、活躍の場は県外の労働員会の方々との研修や意見交換会の場でした。昨今のコロナ感染対策の中では活躍する場がありませんでした。一日でも早くコロナが収束して、労働委員会の事業が平常に戻り、名刺交換の場が多くなることを願っております。